

学長候補者選考の結果について

2021年9月29日

公立大学法人下関市立大学学長の選考及び解任に関する規程（平成21年規程第19号）に基づき、学長選考会議において、現学長の任期満了に伴う次期学長候補者の選考を行った結果、下記の者を選考いたしましたのでお知らせいたします。

記

次期学長候補者氏名 はん ちゃん わん
韓 昌 完

生年月日 1969年9月17日（52歳）

最終学歴 東北大学大学院 医学系研究科博士後期課程（博士（医博（障）第88号））

東北大学大学院 経済学研究科経済・経営学専攻博士後期課程

（博士（経博（経営）第84号））

主な経歴 韓国，ウソン大学保健福祉学部助教授

東北大学大学院医学系研究科 Visiting Professor

韓国，ウソン大学保健福祉アカデミー所長

琉球大学教育学部教授

公立大学法人下関市立大学理事

下関市立大学副学長・教授

【お問い合わせ先】

公立大学法人下関市立大学 副学長・事務局長（学長選考会議議長）砂原 雅夫

電話：083-252-0288 FAX：083-253-1622

2021年9月29日

公立大学法人下関市立大学
理事長 山村 重彰 様

学長選考会議
議長 砂原 雅夫



学長候補者選考の結果について

公立大学法人下関市立大学学長の選考及び解任に関する規程(平成21年規程第19号)に基づき、現学長の任期満了に伴う次期学長候補者として下記のとおりといたしましたので、学長候補者選考結果報告書を添付の上報告いたします。

記

次期学長候補者 韓 昌 完

以上



2021年9月29日

学長候補者選考結果報告書

公立大学法人下関市立大学学長選考会議は、2022年3月末日をもって現川波洋一学長が任期を満了することから、2021年6月23日に設置された。会議は経営審議会から選出された3名、教育研究審議会から選出された3名の計6名から構成され、理事会から推薦された学長候補者候補について、学長候補者にふさわしいか否か委員相互で議論を行い、学長の選考及び解任に関する規程に基づき2021年12月末日までに学長候補者を決することとした。

学長候補者の選考にあたっては、候補者候補の人数や国籍は問わず、理事会から推薦された学長候補者候補全員を対象に慎重な審議を行うこととし、学長選考の判断基準を明確にするため、「下関市立大学次期学長選考に際し求められる資質・能力等に関する基準について」を作成した。また、学長候補者候補には所信表明書の提出を求め、さらに学長候補者候補の次期学長としての決意、取り組み姿勢などを直接聴取の後、委員相互が熟議し、総合的に判断することにより学長候補者を決定することとした。

このような学長選考会議の審議を経て、次期学長候補を「韓 昌完」氏とすることで当該会議は決した。

以下、その詳細について記述する。

《経緯》

2021年6月23日 第1回学長選考会議 開催

- ・議長の互選、議長が職務代行者を指名
- ・12月末日までに学長候補者を決定することで一致

8月4日 理事会から「韓 昌完」氏1名を推薦する旨通知を受ける。

8月5日 学長選考会議が理事会からの推薦者が「韓 昌完」氏1名であることを学内に公表

8月10日 第2回学長選考会議

- ・学長選考基準「下関市立大学次期学長に求められる資質・能力等について」を協議

- ・所信表明の聞き取り日程等、今後の流れを決定
「韓 昌完」氏より所信表明書の受理

9月1日 第3回学長選考会議

- ・韓 昌完学長候補者候補の所信表明及び次期学長としての決意、
取り組み姿勢などを聴取
- ・委員による審議
- ・委員総意をもって「韓 昌完」氏を学長候補者に決定

9月29日 学長候補者を選考会議から理事長に報告

《韓昌完候補者候補の所信表明の概要》

経歴としては医学と経済学で博士号を取得し、日韓それぞれの大学で研究者を育成してきた。そして、この2年では本学において大学経営のキャリアを積んだ。研究分野としてはヒューマンサービス分野とされる、人を中心にした幅広い領域で研究活動を行うとともに、特に尺度開発研究に注力し、研究成果を現場に返すことを目的とし、企業との共同研究を行った。

大学は社会的ニーズをどこよりも早く察知し、社会課題の解決やビジョンを提示しなければならない。

この一歩として、まず私は、改革の軸として「迅速で機動的な組織運用体制の構築」「教育・研究活動に専念できる体制及び仕組みの構築」「バランスのとれた未来型カリキュラムの構築」と3つの基礎的改革を提案し、理事長、学長のもと理事・副学長として実施した。

今後の改革の方針については、「教育と研究の一体性に基づく新たな知の創造」で、総合大学化に向けて教学のリーダーである学長としての責任のもとで推進し、絶対に成し遂げるという強い覚悟がある。次に「東アジアを中心に広く世界に向けた教育と研究」で、ダイバーシティな下関の街を背景に学生交流などの教育活動に加え、研究交流や町おこしの観点も取り入れ、他大学ではできないことをやっていく。最後に「地域社会の知的センターとして地域に根差した教育と研究」について、地域の産業と大学、行政が手を携え、町おこしの仕組みづくりが不可欠と考える。

福祉、医療、教育、経済の分野での勤務経験と日韓を通しての私立大学、国立大学、公立大学における勤務経験に基づいて学際的な思考の積み重ね、組織を俯瞰する視点もっている私だからこそ、これらの3つの理念のもとに地域に根差し世界に誇れる大学にしていけると自負する。

《委員による聴取》

韓 昌完学長候補者候補の所信表明を踏まえ委員から質疑があった。「リーダーシップの取り方についてどのように考えるか。」という質問に対しては、「学長たるものは学問・研究のリーダーになることが必要で、知のリーダーシップを第一に考える。経営については当然副理事長として責務を担うが、理事長と分担して行いたい。」と回答した。

「地域との連携や地方創生に係る大学の目標指標は。」という質問に対しては、「地域に根差していない大学は世界にも出ていけない。地域との連携を進める中で、地方創生を図る目標指標については、私にとって新たな研究課題となる。」と回答した。「副学長として、本学にとって新しい人材として改革に向け貢献されてきたと思う。まだまだ厳しい壁があると思うが、やり遂げられるか。」との質問に対しては、「全力を尽くす。」と回答した。「これから大学をどのような場にしていくか。」との質問に対しては、「大学は社会全体が顧客であり、18歳人口のみが対象ではない。オンライン授業を活用しながら社会人教育も進めていく。」と回答した。「今後の事務組織のあり方について」という質問に対しては、「改善点としてミドルマネジメントに取り組んでいく。」と回答した。

以上のような質疑であった。

《委員審議》

学長候補者候補について、「下関市立大学次期学長選考に際し求められる資質・能力等に関する基準について」に基づき委員による審議を行った。

その結果、学長候補者候補は、知のリーダーシップを掲げ、改革のエネルギーをもつ者であり、教育・研究と経営を理事長との間で役割分担を考えており、教育・研究を中心に法人運営にも寄与できる人物との意見があった。また、地域に根差した大学を掲げ、社会人の受け入れも積極的なところから、公立大学の特性を生かした大学運営が出来る者であるとの意見もあった。さらに、学内外の変化を大学改革のエネルギーに変え、総合大学化を成し遂げる強い決意を持つとの意見、学生交流に比べて遅れていた研究分野の国際化にも触れていることを評価するほか、学部生との交流も深め、学生にとって顔の見える学長を目指しているとの意見もあった。さらに地域の代表的知識人として学長自ら地域に出かけ市民講座を担当するという斬新な考え方も注目された。

一方で、学内での和（なごみ）を求める声やコミュニケーションを求める意見があった点に留意されたい。

《結論》

韓 昌完学長候補者候補を学長候補者として理事長に報告することで委員全員が一致した。

2021年9月29日

公立大学法人下関市立大学学長選考会議

委員 砂原 雅夫 

委員 渡邊 尚孝 

委員 中村 信悟 

委員 国重 敦生 

委員 西村 政子 

委員 小原 肇 